

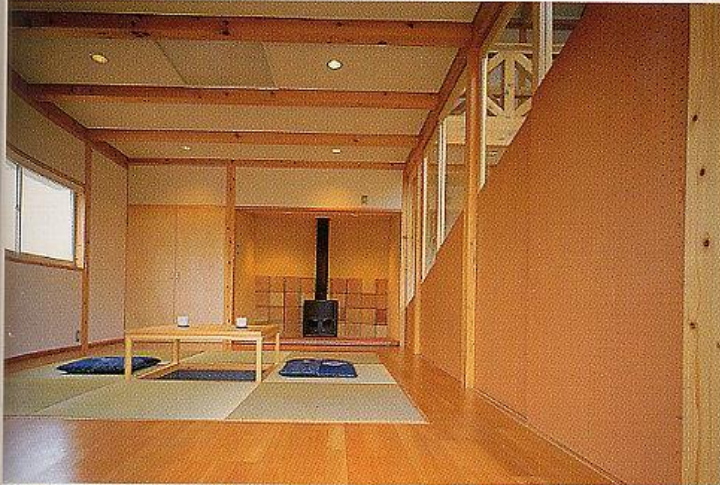
# 囲炉裏テーブルと 木レンガ土間の現代民家

田所邸 設計●富田建築設計室

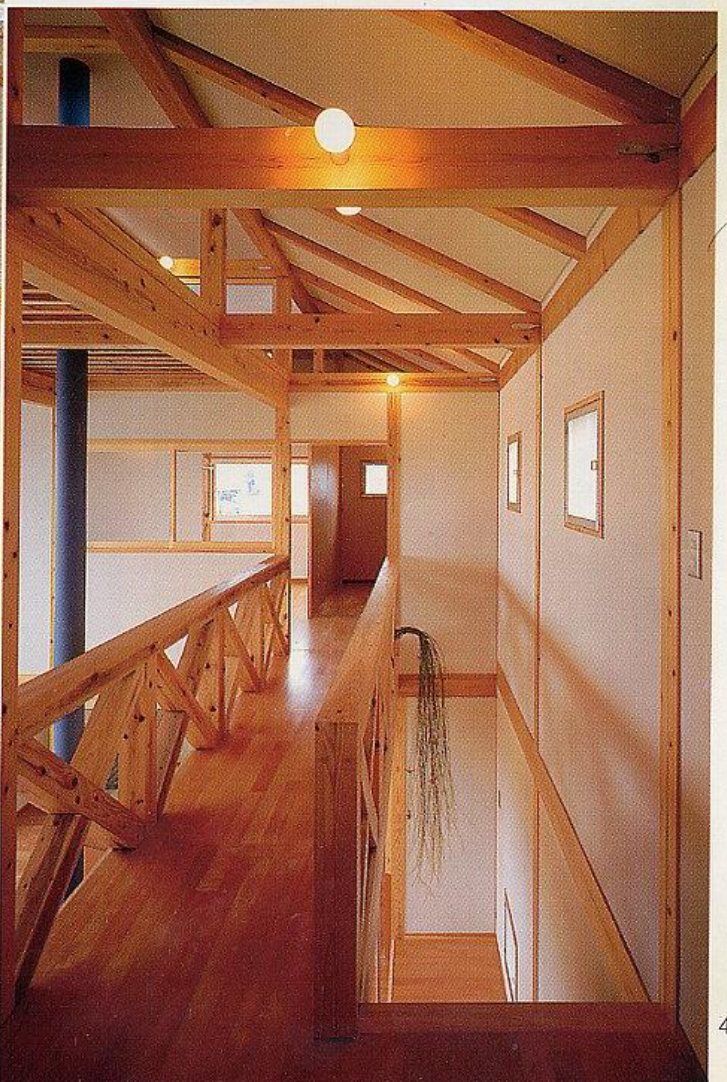
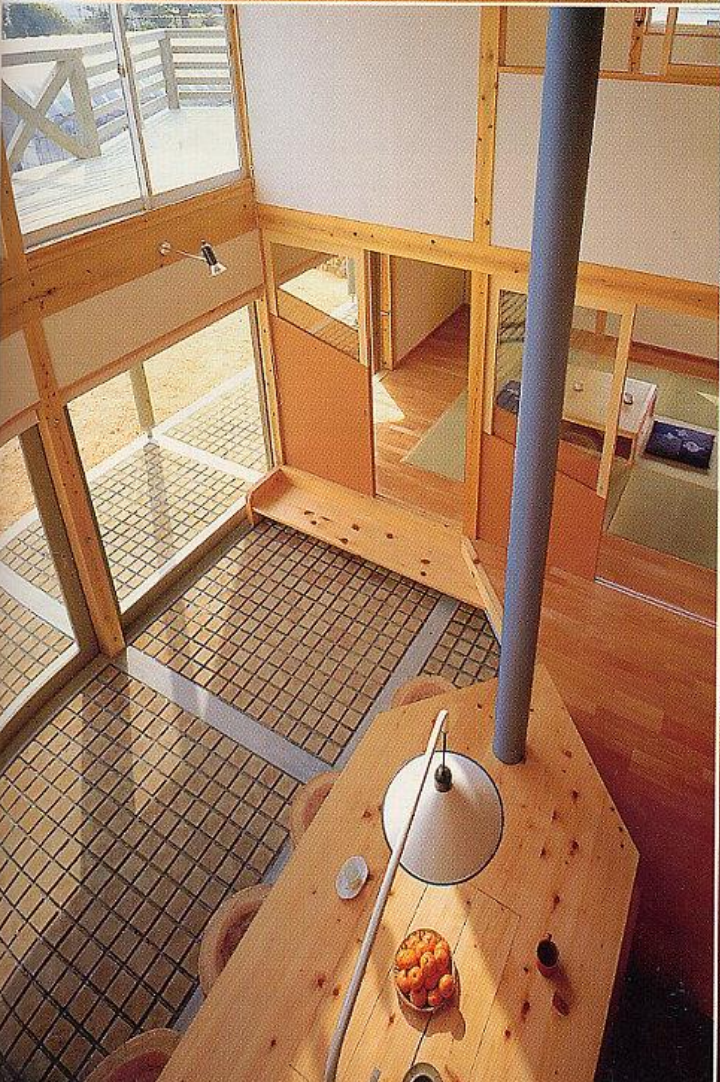
徳島の田所邸は、若夫婦とお子さんの住む母屋、ご両親の住む離れの2棟から成る二世帯住宅。母屋はポーチから食堂にあたる吹抜けの間まで木レンガを敷き詰め、土足のままで行き来できるようにしています。この現代風の土間空間により、何気なく訪問者を家の奥深く導く、構えない住まいになっています。この土間から木レンガを同レベルで外部テラスへと連続させることで、前庭と室内のつながりは増します。4枚の建具は引き込み式のデザインでフルに開放でき、ガラスを通すことなく前庭を生活の中にダイレクトに取り込みます。季節に応じた自然との交流が楽しめるのです。

吹抜けの間は家族のコミュニケーションのための抜きであり、そこで上下階が一体になります。暖められた空気は、ブルーのパイプを通してテーブル下に吹き出します。暖房時の簡易空気循環システムであり、暖気が上方に集まりがちな、大きな吹抜け空間を快適にする現代のテクニックが生かされています。吹抜けの間と茶の間は斜めにカットした、半スクリーンの建具で仕切れるようにしています。部屋の広がり失わないように、適度にプライバシーを保つデザインです。木造の架構は県産杉で、壁はしつくい。自然の素材は、温かみを感じさせるだけ

●富田建築設計室 ☎0806-55-3885 撮影/大竹静市郎



左・吹抜けの間とスクリーン風の建具で仕切れる茶の間。緑無し畳に切られた掘りこたつと暖炉のコンビネーションが新鮮。暖炉はイングルヌックで、おらかな吹抜けの間に対する、包み込まれるような安らぎの空間に意図されている。  
左下・吹抜けの間見下ろし。木レンガの土間は外部テラスと同じレベルで連続する。テーブルには収納可能な囲炉裏が切られているのが見える。囲炉裏の排煙は、越屋根の煙出し窓で行う仕組み。  
下・吹抜けの上方に架けられた2階のブリッジ。表しの骨組が気持ちよい。





でなく、室内をほどよく調湿してくれます。1間ピッチの柱と半間ピッチの梁は、繰り返し心地よいリズムをインテリアに与えています。

吹抜けの間から茶の間に向かって。暖炉や大テーブルに切った暖炉裏で暖められた空気は、屋根裏に取り付けた熱交換空調換気扇で新鮮な暖気に変えられ、ブルーのパイプを過ってテーブル下へ。パイプはその機能と空間の象徴としての意味を持つ。